

2021年（令和三年） 1月15日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所  
石油情報センター電話（03）3534-7411（代）  
FAX（03）3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階  
ホームページ <https://oil-info.iej.or.jp>

## ■ 概況

12/24～1/6のNYMEX・WTI先物市場は、47.62～50.63ドルの範囲で推移した。

1月7日は、引き続き、5日のサウジの100万b/d自主減産発表による需給引き締め感が大きく、3日続伸した。バイデン政権による大型経済対策への期待、米国株価の好調など経済先行きの明るさも、上昇要因となった。2月限の終値は前日比0.20ドル高の50.83ドル。

週末8日も、サウジ発表による需給緩和感の後退が意識され、4日続伸した。2月限の終値は前日比1.41ドル高の52.24ドル。

週明け11日は、新型コロナの感染再拡大への懸念で、朝方売りが先行したが、引き続き、サウジの自主減産や追加経済対策への期待が大きく、わずかに値上がりした。2月限終値は前週末比0.01ドル高の52.65ドル。

12日は、このところの需給引き締め感、経済先行きへの楽観から、6営業日続伸した。2月限の終値は前日比0.96ドル高の53.21ドル。

13日は、前日までの高値の反動で利益確定売りに押され、7営業日ぶりに反落した。米国エネルギー情報局(EIA)の週間在庫報告では、原油は市場予想を上回る取り崩しだったが、ガソリンは在庫が大きく積み増された。2月限の終値は前日比0.30ドル安の52.91ドル。

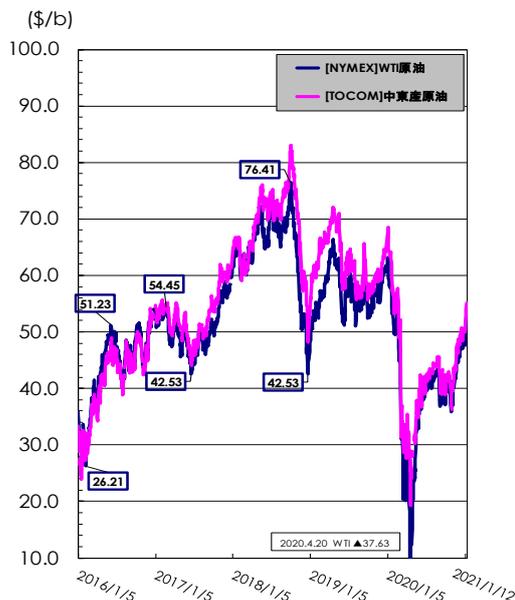
アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(2月渡し)は12月24日～1月6日の間50.10～53.20ドルの範囲で推移した。1月7日54.40ドル、8日54.60ドル、11日休場、12日55.40ドル、13日56.90ドルと推移した。

為替は12月24日～1月6日の間102.68～103.82円の範囲で推移した。1月7日102.99円、8日103.85円、11日休場、12日104.23円、13日103.68円で推移した。

財務省が1月8日に発表した貿易統計(速報・旬間)によると、12月中旬の原油輸入平均CIF価格は、28,973円/klで、前旬比83円高、ドル建て44.21ドルで前旬比0.16ドル高、為替レートは1ドル/104.18円。

そのような中で、1月12日時点の小売価格は、ガソリンが前週(1月4日)比0.4円の値上がり、軽油も同0.4円の値上がり、灯油は6円の値上がり(18%ベース)だった。ガソリンは7週連続の値上がり、軽油も7週連続の値上がり、灯油も7週連続の値上がりだった。この週(1月第2週)の原油コストは大きく値上がりし、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに前週比1.5～2.0円の引き上げに分かれた。

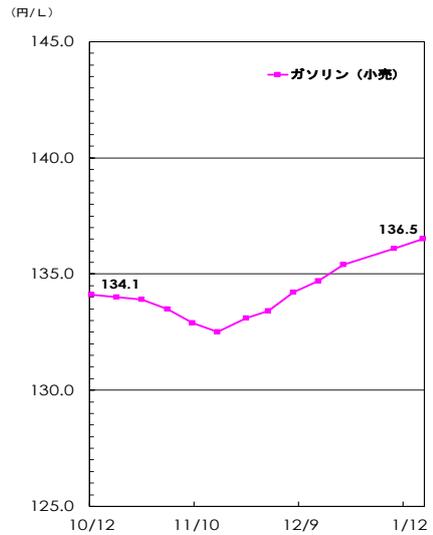
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	1/3 ~ 1/9	3,041 ▲41	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	79.0 ▲1.0	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	1/9	10,748 ▼37	▲ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	1/12	55.13 ▲5.23	▼ -8.2
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	1/11	52.25 ▲4.63	▼ -5.8
	原油CIF単価 (\$/bbl)	12月中旬	44.21 ▲0.16	▼ -23.03
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	28,973 ▲83	▼ -17,103
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	104.18 ▲0.10	▲ 4.76
	外国為替TTSレート (¥/\$)	1/12	105.23 ▼-1.15	▲ 5.93



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	1/3 ~ 1/9	895 ▼ -1	▼ -	
	輸入	"	n.a. n.a.	n.a.	
	出荷	"	757 ▼ -80	▼ -	
	輸出	"	50 ▼ -64	▲ -	
	在庫	1/9	2,035 ▲ 87	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	1/5 ~ 1/11	48.4 ▲ 1.6	▼ -16.1	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	1/5 ~ 1/11	45.2 ▲ 1.1	▼ -14.7
		(TOCOM/中部)	1/8	48.8 ▲ 3.8	▼ -12.6
	小売 [週動向] (資工庁公表)	1/12	136.5 ▲ 0.4	▼ -14.6	

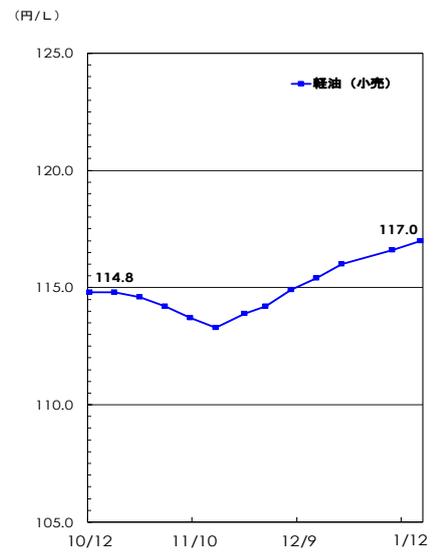
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

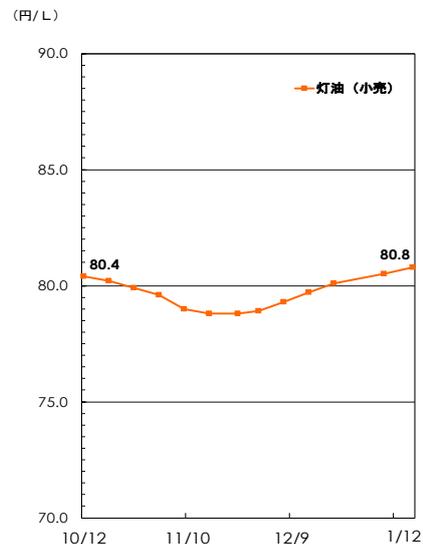
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	1/3 ~ 1/9	627 ▲ 89	▼ -	
	輸入	"	n.a. n.a.	n.a.	
	出荷	"	442 ▲ 188	▼ -	
	輸出	"	47 ▲ 22	▼ -	
	在庫	1/9	1,854 ▲ 138	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	1/5 ~ 1/11	50.9 ▲ 1.6	▼ -16.0	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	1/5 ~ 1/11	52.1 ▲ 1.2	▼ -16.4
		(TOCOM/中部)	1/8	- -	- -
	小売 [週動向] (資工庁公表)	1/12	117.0 ▲ 0.4	▼ -14.3	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	1/3 ~ 1/9	418 ▼ -70	▲ -	
	輸入	"	n.a. n.a.	n.a.	
	出荷	"	496 ▼ -14	▼ -	
	輸出	"	24 → 0	▲ -	
	在庫	1/9	2,266 ▼ -102	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	1/5 ~ 1/11	50.8 ▲ 1.3	▼ -15.9	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	1/5 ~ 1/11	49.2 ▲ 1.8	▼ -14.5
		(TOCOM/中部)	1/8	51.5 ▲ 2.0	▼ -13.9
	小売 [週動向] (資工庁公表)	1/12	80.8 ▲ 0.3	▼ -13.5	



■ 関連情報

1 海外/原油

1月13日のNYMEXのWTI先物原油は、前日までの高値の反動で利益確定売りに押され、7営業日ぶりに反落した。米国エネルギー情報局(EIA)の週間在庫報告では、原油は前週末比320万バレル減と市場予想(同230万バレル減)を上回る取り崩しだったが、ガソリンは在庫が大きく積み増された。外国為替市場でのドル高・ユーロ安の進行は原油先物の割高感を感じさせ、変異種コロナウイルスの感染拡大も、値下がり要因となった。2月限の終値は前日比0.30ドル安の52.91ドル、3月限の終値は同0.28ドル安の52.96ドル。

EIAによると、1月11日時点のガソリンの小売価格は、前週

比6.8セント値上がりの1ガロン2.317ドル(64.1円/ℓ)、ディーゼルは同3.0セント値上がりの2.670ドル(73.9円/ℓ)となった。ガソリンは7連続の値上がり、ディーゼルは10週連続の値上がりだった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2021年1月3日～1月9日に休止したトッパー能力は13.6万バレル/日で、前週に対して0.0万バレル/日減少した(全処理能力は345.8万バレル/日)。

原油処理量は304.1万klと、前週に比べ4.1万kl増加。前年に対しては46.6万klの減少。トッパー稼働率は79.0%と前週に対して1.0ポイントの増加、前年に対しては10.6ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてガソリン、灯油が減産、その他の油種で増産となった。ガソリン/0.2%減、ジェット/89.0%増、灯油/14.3%減、軽油/16.6%増、A重油/14.7%増、C重油/7.3%増。今週のC重油の輸入は2.8万kl(前週比1.2万kl増)。軽油の輸出は4.7万kl(前週比2.2万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は前週比でガソリン、灯油が減少、その他の油種で増加となった。前年比ではC重油が増加となり、その他の油種で減少となった。ガソリンの出荷は75.7万kl(対前週9.5%減)と2週連続で減少した。ジェット8.0万kl(対前週78.2%増)、灯油49.6万kl(対前週2.9%減)、軽油44.2万kl(対前週73.6%増)、A重油22.4万kl(対前週67.9%増)、C重油25.2万kl(対前週148.2%増)。

(単位:千kl)

	今週 (1/3 ~ 1/9)	前週 (12/27 ~ 1/2)	前週比	
ガソリン	757	837	▼ -80	(-10%)
ジェット燃料	80	45	▲ 35	(78%)
灯油	496	510	▼ -14	(-3%)
軽油	442	254	▲ 188	(74%)
A重油	224	133	▲ 91	(68%)
C重油	252	101	▲ 151	(150%)
合計	2,251	1,880	▲ 371	(20%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

1月9日時点の在庫は、ガソリン、ジェット、軽油で積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対してはジェットが減少となり、その他の油種で増加となった。

ガソリンは203.5万kl、前週差8.7万kl増。前年に対しては33.7万kl多い。

灯油は226.6万kl、前週差10.2万kl減。前年に対しては3.7万kl多い。

軽油は185.4万kl、前週差13.8万kl増。前年に対しては13.6万kl多い。

A重油は74.8万kl、前週差2.2万kl減。前年に対しては0.9万kl多い。

C重油は193.0万kl、前週差2.7万kl減。前年に対しては2.9万kl多い。

(単位:千kl)

	今週 (1/9)	前週 (1/2)	前週比	
ガソリン	2,035	1,948	▲ 87	(4%)
ジェット燃料	806	764	▲ 42	(5%)
灯油	2,266	2,368	▼ -102	(-4%)
軽油	1,854	1,716	▲ 138	(8%)
A重油	748	770	▼ -22	(-3%)
C重油	1,930	1,957	▼ -27	(-1%)
合計	9,639	9,523	▲ 116	(1.2%)

### 3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

1月5日～11日の指標原油価格は前週(12月22日～1月4日)比で大きく値上がりし、為替レートはわずかに円高で、円建ての原油コストは大きく値上がりしたと見られる。

次週の大手元売卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに、全社前週比1.5～2.0円の引き上げに分かれた。

### 3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

1月5日～11日の製品スポット市況は、12月22日～1月4日平均と比べ、全油種・全取引で値上がりした。

直近(1/5～1/11)の陸上スポット価格平均値(千葉・川崎・中京・阪神の4地区の陸上ラック価格)は、前週比で、ガソリンは1.6円の値上がり、灯油は1.3円の値上がり、軽油は1.6円の値上がりだった。直近週(1/5～1/11)において、ガソリンは101～102円台で値上がり、灯油は50円台で値上がり、軽油は50～51円台で値上がり後やや値を下げて推移した。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週(1/5～1/11)に、前週比で、ガソリンは1.1円の値上がり、灯油は3.4円の値上がり、軽油は0.6円の値上がりだった。海上スポット価格は、同期間(1/5～1/11)に、ガソリンは103円台で値上がり、灯油は48～50円台で値下がり後大きく値上がり、軽油は51～52円台で値上がりして推移した。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは1.1円の値上がり、灯油は1.8円の値上がり、軽油は1.2円の値上がりだった。先物価格は、同期間(1/5～1/11)に、ガソリン97～100円台で大きく値上がり、灯油47～50円台で大きく値上がり、軽油50～53円台で大きく値上がりして推移した。

(RIM) (単位: 円/%)

[陸上ローリー 4地区平均]	今週 (1/5～1/11)	前週 (12/22～1/4)	前週比
	レギュラー	48.4	46.8
灯油	50.8	49.5	▲ 1.3
軽油	50.9	49.3	▲ 1.6

(TOCOM) (単位: 円/%)

[期近物/終値 [平均]]	今週 (1/5～1/11)	前週 (12/22～1/4)	前週比
	レギュラー	45.2	44.1
灯油	49.2	47.4	▲ 1.8
軽油	52.1	50.9	▲ 1.2

※上記価格は税抜き価格

参考値 (1/5～1/11実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 1.6	▲ 1.1	▲ 1.3
灯油	▲ 1.3	▲ 1.8	▲ 1.5
軽油	▲ 1.6	▲ 1.2	▲ 1.4
A重油	▲ 0.9		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

### 4 国内/製品小売価格

1月12日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週(1月4日)比0.4円高の136.5円、軽油も同0.4円高の117.0円、灯油は18%ペースで同6円高の1,455円(1%ペースでは80.8円の同0.3円高)。ガソリンは7週連続の値上がり、軽油も7週連続の値上がり、灯油も7週連続の値上がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは36府県、横ばいは2都県、値下がり9道県となった。全国最安値は130.1円の徳島県(同1.8円高)、その次に安かったのは130.7円の宮城県(前週比0.3円高)、最高値は145.9円の鹿児島県(同0.1円安)だった。最も値上がりしたのは、同2.6円高の愛知県(136.5円)、横ばいは東京都・福島県の2都県、

最も値下がりしたのは、同1.5円安の長野県(143.1円)だった。

今週(1月5日～11日)は、指標原油価格は大きく値上がりし、為替レートはわずかに円安であったが、円建ての原油コストは大きく値上がりしたと見られる。今週(1月5日～11日)は、指標原油価格は大きく値上がりし、為替レートはわずかに円安であったが、円建ての原油コストは大きく値上がりしたと見られる。次週(1月14日～20日)適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社前週比1.5～2.0円の引き上げに分かれた。次回調査時(1月18日)のガソリンの小売価格は、値上がりが見込まれる。

(資工庁公表) (単位: 円/%)

[週動向]	今週 (1/12)	前週 (1/4)	前週比	直近高値	
	レギュラー	136.5	136.1	▲ 0.4	08/8/4
灯油	80.8	80.5	▲ 0.3	08/8/11	132.1
軽油	117.0	116.6	▲ 0.4	08/8/4	167.4

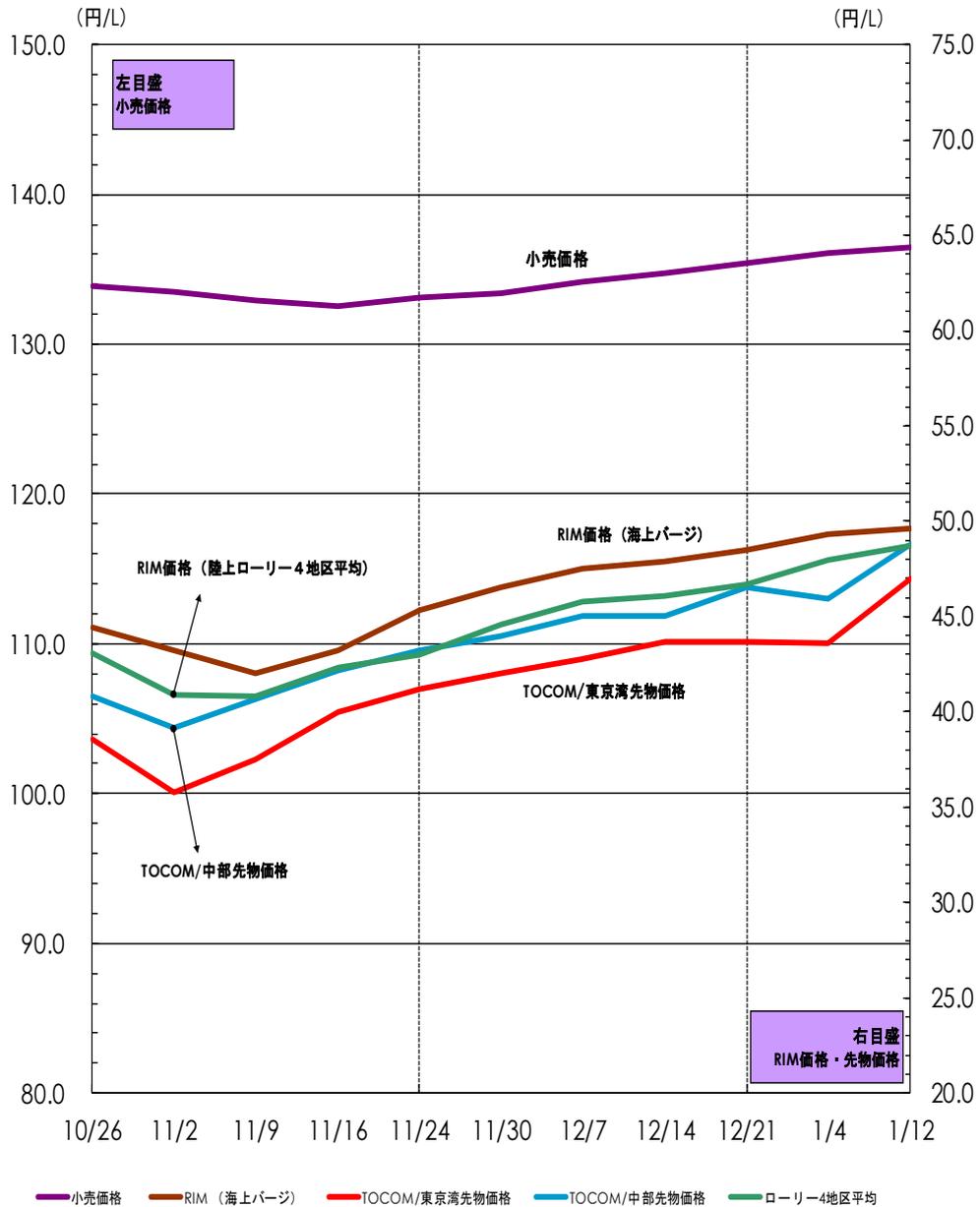
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

# ガソリン価格推移

(2020/10/26 ~ 2021/1/12)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格  
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

## ■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。  
次回(2020第28号)の公表は、1/22(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(令和2年3月末現在)は、8月26日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

### 本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。  
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。  
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

### 「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。  
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

### 本レポート掲載データの出所について

#### ①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。  
「出荷」は当センターの推計。

#### ②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

#### ③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

#### ④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

#### ⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

#### ⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁HPに掲載)。